

第 1 章

概 要

注) 単位未満は四捨五入しているので、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第1 人口動態の概要

青森県の令和元年の出生、死亡、自然増減、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりである。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和元年	平成30年	対前年比	令和元年	平成30年	対前年比	令和元年	平成30年
出生	7,170	7,803	△ 633	5.8	6.2	△ 0.4	1° 13' 18"	1° 07' 22"
死亡	18,424	17,936	488	14.9	14.3	0.6	28' 32"	29' 18"
乳児死亡	23	15	8	3.2	1.9	1.3	380° 52' 10"	584° 00' 00"
新生児死亡	15	10	5	2.1	1.3	0.8	584° 00' 00"	876° 00' 00"
自然増減	△ 11,254	△ 10,133	△ 1,121	△ 9.1	△ 8.1	△ 1.0
死産	168	191	△ 23	22.9	23.9	△ 1.0	52° 8' 34"	45° 51' 50"
自然死産	88	91	△ 3	12.0	11.4	0.6	99° 32' 44"	96° 15' 49"
人工死産	80	100	△ 20	10.9	12.5	△ 1.6	109° 30' 00"	87° 36' 00"
周産期死亡	36	21	15	5.0	2.7	2.3	243° 20' 00"	417° 08' 34"
妊娠満22週以後の死産	25	13	12	3.5	1.7	1.8	350° 24' 00"	673° 50' 46"
早期新生児死亡	11	8	3	1.5	1.0	0.5	796° 21' 49"	1,095° 00' 00"
婚姻	4,601	4,737	△ 136	3.7	3.8	△ 0.1	1° 54' 14"	1° 50' 57"
離婚	2,009	2,022	△ 13	1.62	1.61	0.01	4° 21' 37"	4° 19' 56"
区分	令和元年	平成30年						
合計特殊出生率	1.38	1.43						

(全国)

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和元年	平成30年	対前年比	令和元年	平成30年	対前年比	令和元年	平成30年
出生	865,239	918,400	△ 53,161	7.0	7.4	△ 0.4	00' 36"	00' 34"
死亡	1,381,093	1,362,470	18,623	11.2	11.0	0.2	00' 23"	00' 23"
乳児死亡	1,654	1,748	△ 94	1.9	1.9	0.0	5° 17' 47"	5° 00' 41"
新生児死亡	755	801	△ 46	0.9	0.9	0.0	11° 36' 10"	10° 56' 11"
自然増減	△ 515,854	△ 444,070	△ 71,784	△ 4.2	△ 3.6	△ 0.6
死産	19,454	19,614	△ 160	22.0	20.9	1.1	27' 01"	26' 48"
自然死産	8,997	9,252	△ 255	10.2	9.9	0.3	58' 25"	56' 49"
人工死産	10,457	10,362	95	11.8	11.0	0.8	50' 16"	50' 43"
周産期死亡	2,955	2,999	△ 44	3.4	3.3	0.1	2° 57' 52"	2° 55' 16"
妊娠満22週以後の死産	2,377	2,385	△ 8	2.7	2.6	0.1	3° 41' 07"	3° 40' 23"
早期新生児死亡	578	614	△ 36	0.7	0.7	0.0	15° 09' 21"	14° 16' 02"
婚姻	599,007	586,481	12,526	4.8	4.7	0.1	00' 53"	00' 54"
離婚	208,496	208,333	163	1.69	1.68	0.01	02' 31"	02' 31"
区分	令和元年	平成30年						
合計特殊出生率	1.36	1.42						

注:1) 青森県の基礎人口は令和元年が1,240,000人、平成30年が1,258,000人である。

注:2) 全国の基礎人口は令和元年が123,731,176人、平成30年が124,218,285人である。

注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

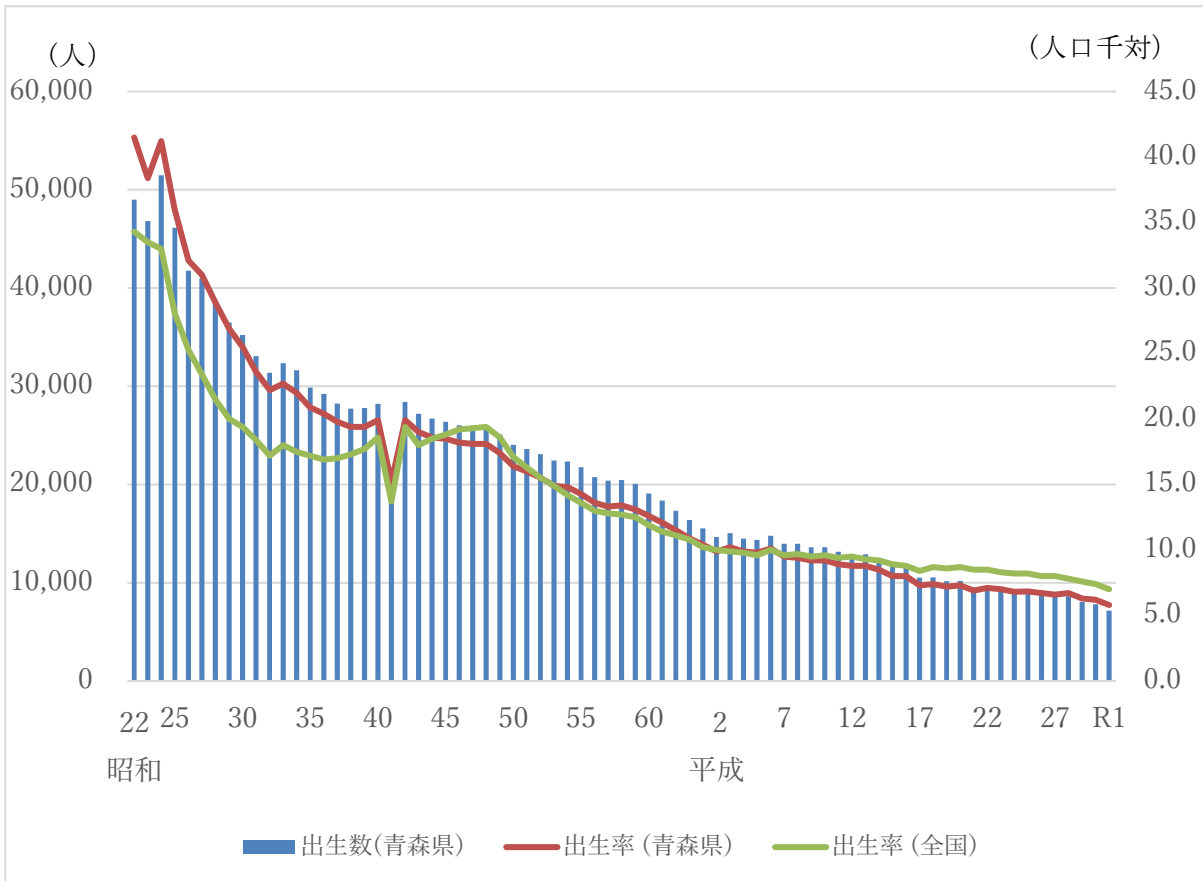
1 出生

(1) 概況及び年次推移

令和元年の出生数は7,170人で、前年の7,803人より633人減少した。出生率（人口千対）は5.8で、前年の6.2を0.4ポイント下回り、全国の7.0を1.2ポイント下回った。（表1）

年次推移をみると、年々減少・低下傾向にあり、昭和24年には出生数が50,000人を超えていたが、昭和50年には25,000人を下回り、平成21年以降は10,000人を割り込んでいる。（図1）

図1 出生数、出生率の年次推移



(2) 地域別出生

令和元年の市部の出生数は5,811人、郡部は1,359人であり、出生率（人口千対）は市部が6.0で郡部の4.9を1.1ポイント上回っている。

詳細は第2章第6表に記載されているので、参照されたい。

(3) 出生順位と母の年齢

令和元年に出生した子（死産を除く）が、子の母の何番目の子に該当するかを表す、出生順位別出生数の構成比は、第1子が43.6%、第2子が35.8%、第3子以上が20.6%となっており、第1子と第2子で全体の約8割を占めている。（第2章第8表参照）

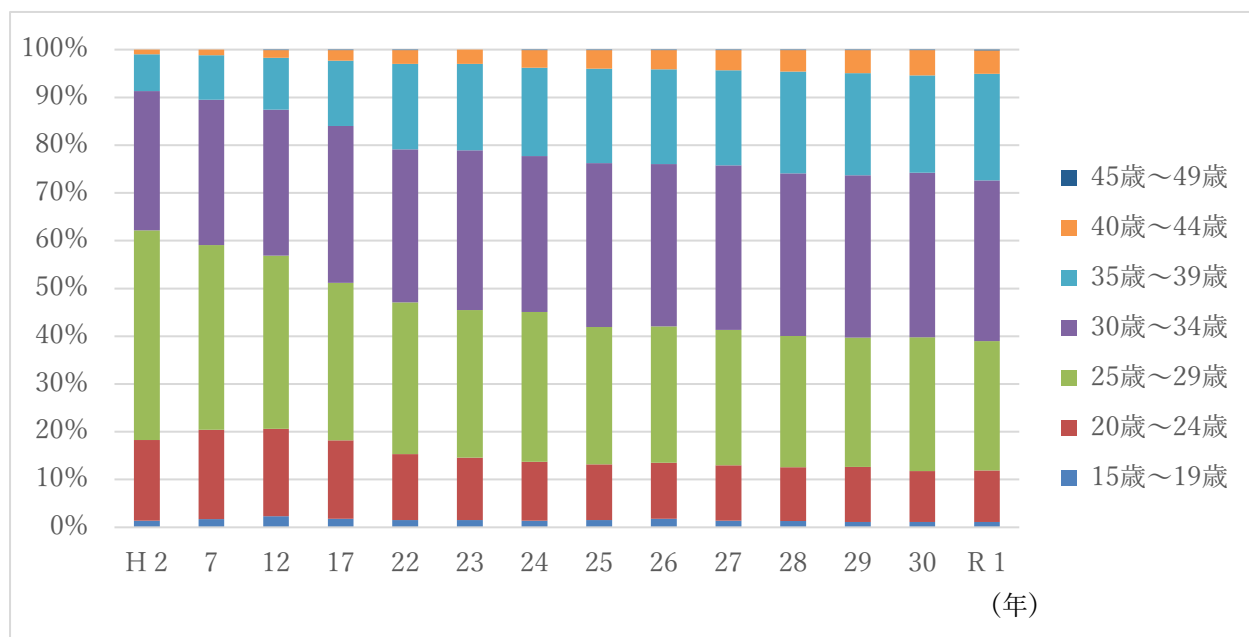
また、令和元年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30歳から34歳が33.7%で最も高く、次いで25歳から29歳が27.1%となっている。（表2）

表2 母の年齢階級別出生の構成比

(単位：%)

母の年齢	H 2	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R 1
15歳～19歳	1.4	1.7	2.3	1.8	1.5	1.5	1.4	1.5	1.8	1.4	1.3	1.1	1.1	1.1
20歳～24歳	16.9	18.7	18.3	16.4	13.8	13.1	12.3	11.7	11.7	11.6	11.3	11.5	10.7	10.8
25歳～29歳	43.9	38.7	36.3	33.0	31.8	30.9	31.4	28.8	28.6	28.3	27.5	27.1	28.0	27.1
30歳～34歳	29.1	30.4	30.5	32.8	32.0	33.4	32.6	34.3	34.0	34.5	34.1	33.9	34.4	33.7
35歳～39歳	7.7	9.3	10.9	13.7	17.9	18.1	18.5	19.8	19.9	19.9	21.3	21.4	20.4	22.3
40歳～44歳	1.0	1.2	1.6	2.2	2.9	3.0	3.7	3.9	4.0	4.2	4.5	4.8	5.3	4.9
45歳～49歳	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2

図2 母の年齢階級別出生の構成比

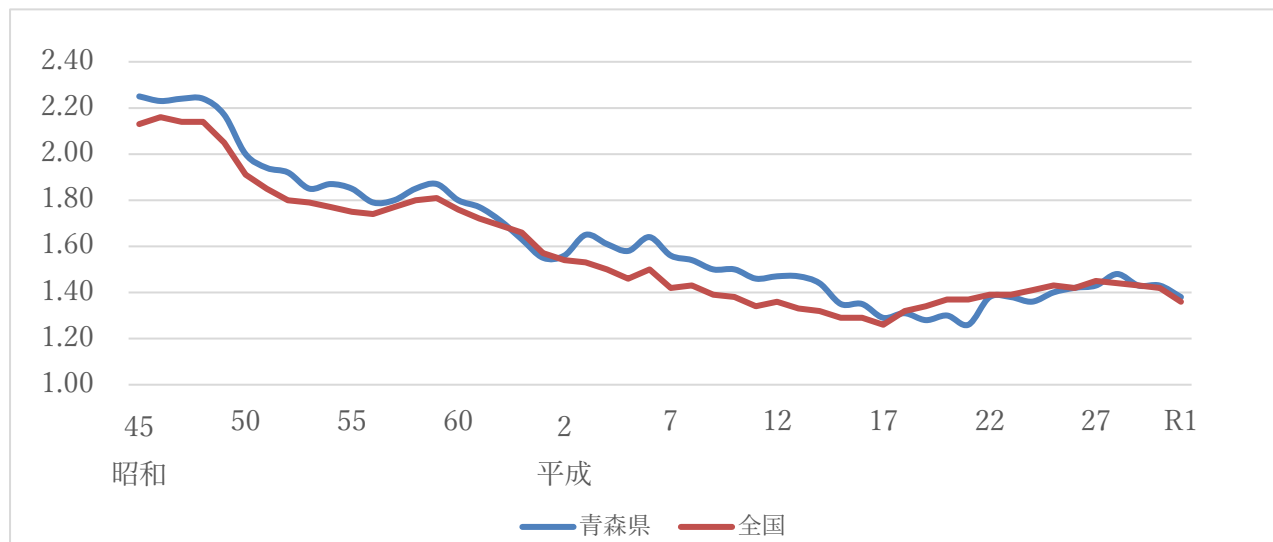


(4) 合計特殊出生率

令和元年の合計特殊出生率は1.38で、前年の1.43より0.05減となり、全国の1.36を0.02ポイント上回った。(表1)

年次推移をみると、年々低下傾向にあり、平成18年から全国平均を下回って推移したが、平成25年から上昇傾向に転じ、平成28年には全国平均を上回った。(図3)

図3 合計特殊出生率の年次推移

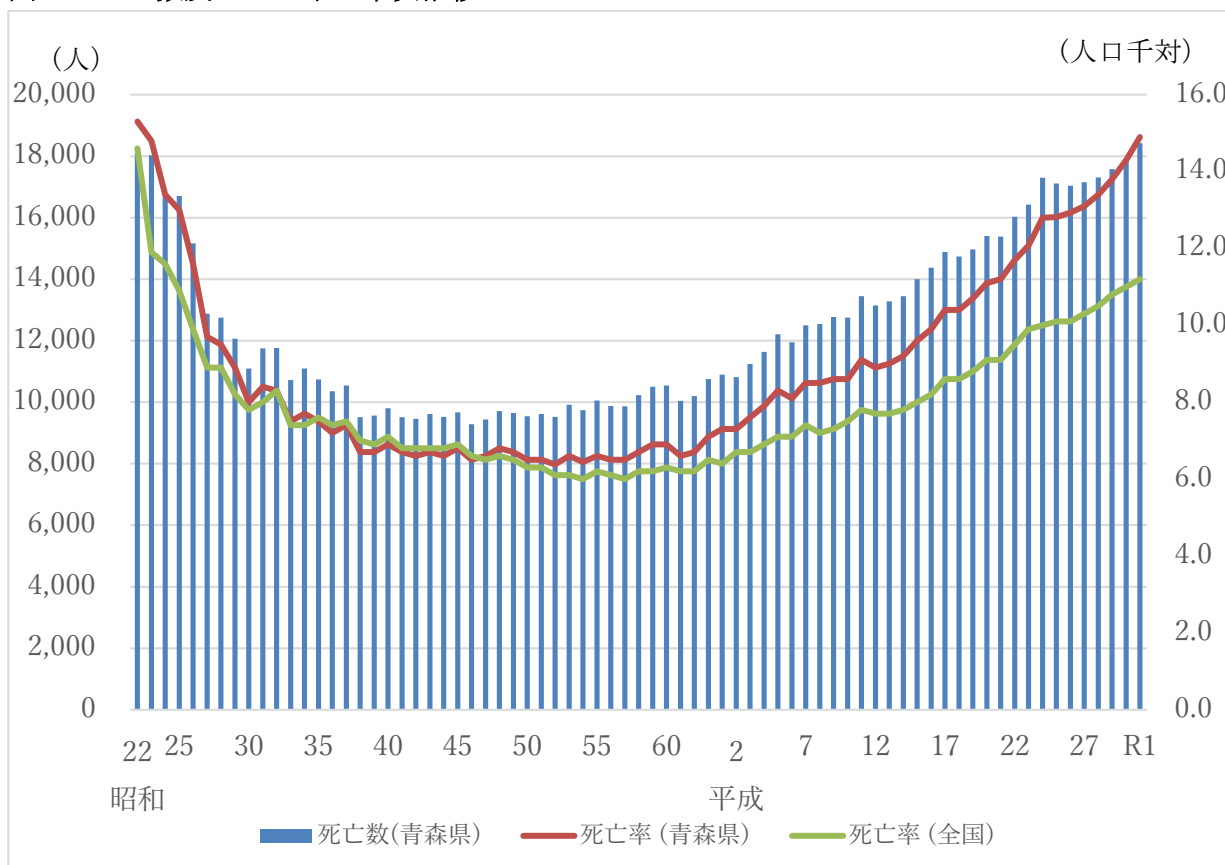


2 死 亡

(1) 概況及び年次推移

令和元年の死亡数は18,424人で、前年の17,936人より488人増加した。死亡率（人口千対）は14.9で、前年の14.3を0.6ポイント上回り、全国の11.2を3.7ポイント上回った。（表1）年次推移をみると、戦後著しく減少・低下し、死亡率は昭和33年には8.0、昭和38年には7.0を下回った後、横ばい傾向になったが、高齢化の進行に伴い、増加・上昇に転じた。（図4）

図4 死亡数及び死亡率の年次推移



(2) 地域別死亡

令和元年の市部の死亡数は13,509人、郡部は4,915人であり、死亡率（人口千対）は市部が13.9で郡部の17.8を3.9ポイント下回っている。

詳細は第2章第13表に記載されているので、参照されたい。

(3) 主要死因

令和元年の死因の第1位は悪性新生物で、死亡数5,125人、死亡率（人口10万対）は413.3となった。第2位は心疾患で、死亡数2,805人、死亡率226.2、第3位は脳血管疾患で、死亡数1,611人、死亡率129.9、第4位は老衰で、死亡数1,494人、死亡率120.5となった。（表3）

表3 死因順位別死亡数、死亡率

（前年比較・全国比較）

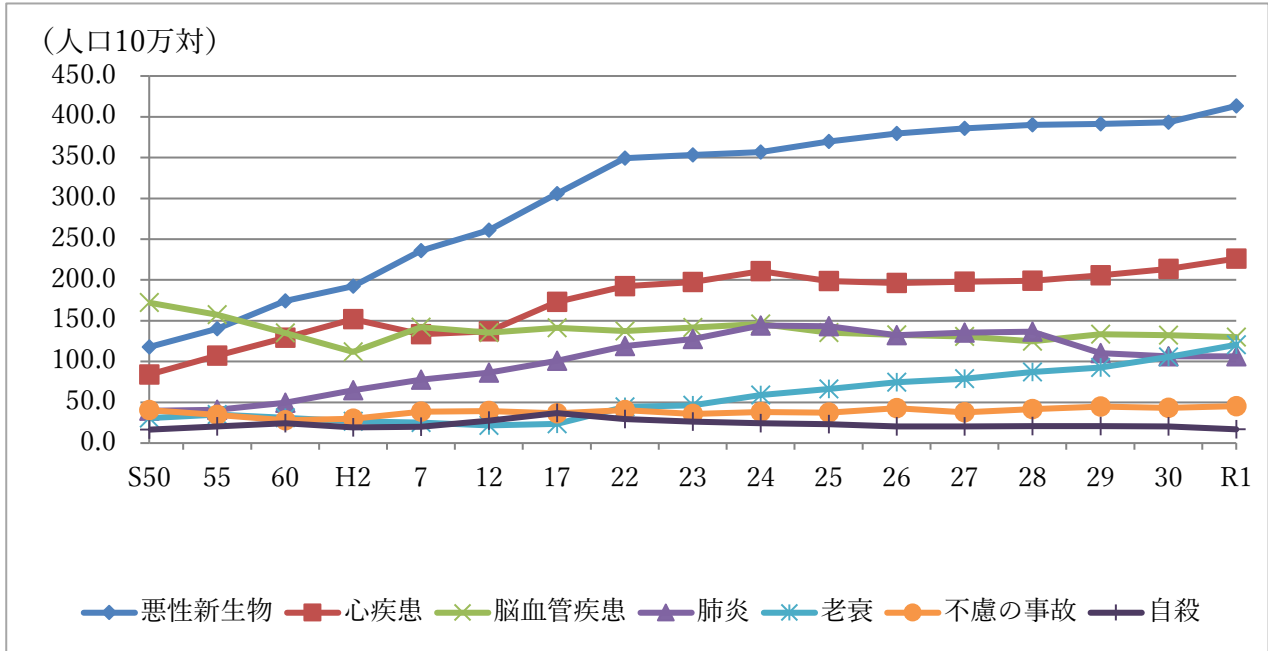
死 因	青森県						全国		
	令和元年			平成30年			令和元年		
	順位	死亡数	率	順位	死亡数	率	順位	死亡数	率
死亡総数		18,424	1,485.8		17,936	1,425.8		1,381,093	1,116.2
悪性新生物	1	5,125	413.3	1	4,947	393.2	1	376,425	304.2
心疾患	2	2,805	226.2	2	2,684	213.4	2	207,714	167.9
脳血管疾患	3	1,611	129.9	3	1,666	132.4	4	106,552	86.1
老衰	4	1,494	120.5	5	1,328	105.6	3	121,863	98.5
肺炎	5	1,321	106.5	4	1,336	106.2	5	95,518	77.2
不慮の事故	6	562	45.3	6	543	43.2	7	39,184	31.7
腎不全	7	430	34.7	8	373	29.7	8	26,644	21.5
アルツハイマー病	8	387	31.2	10	301	23.9	10	20,730	16.8
血管性及び詳細不明の認知症	9	379	30.6	7	375	29.8	9	21,394	17.3
誤嚥性肺炎	10	351	28.3	9	332	26.4	6	40,385	32.6

（青森県男女比較）

死 因	令和元年					
	男性			女性		
	順位	死亡数	率	順位	死亡数	率
死亡総数		9,286	1,592.8		9,138	1,390.9
悪性新生物	1	2,936	503.6	1	2,189	333.2
心疾患	2	1,334	228.8	2	1,471	223.9
脳血管疾患	3	801	137.4	4	810	123.3
老衰	5	364	62.4	3	1,130	172.0
肺炎	4	731	125.4	5	590	89.8
不慮の事故	6	320	54.9	8	242	36.8
腎不全	7	209	35.8	9	221	33.6
アルツハイマー病	14	128	22.0	6	259	39.4
血管性及び詳細不明の認知症	12	133	22.8	7	246	37.4
誤嚥性肺炎	8	207	35.5	10	144	21.9

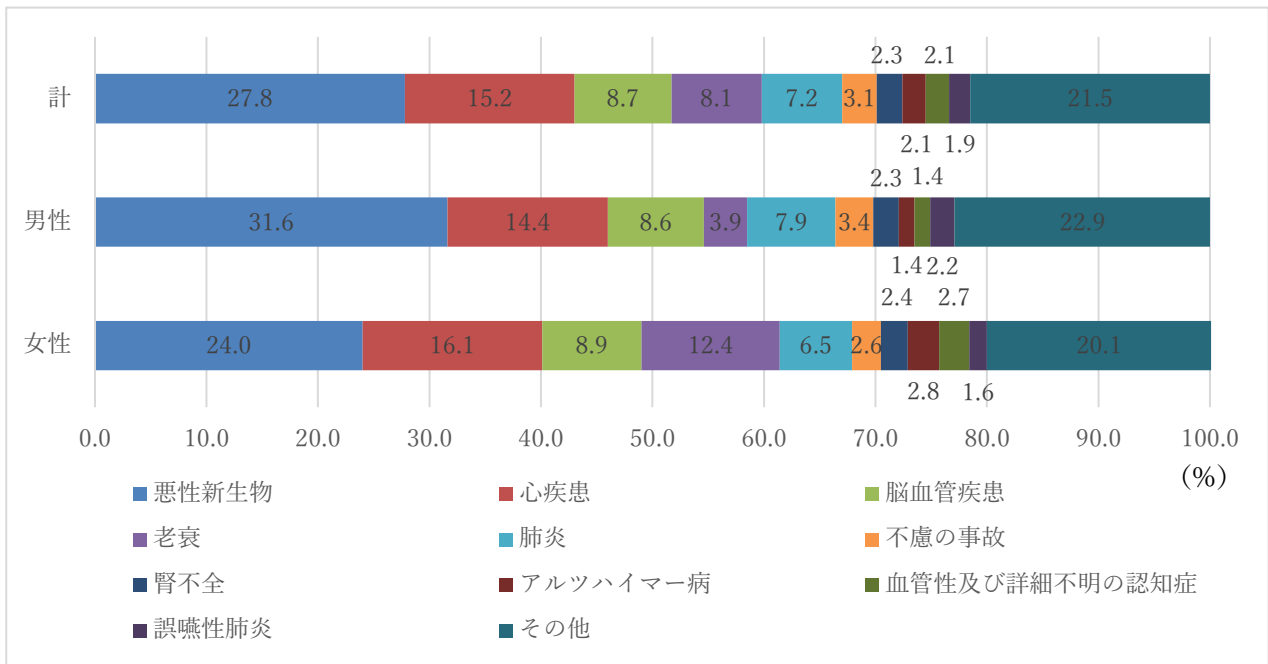
年次推移をみると、昭和50年には、「脳血管疾患」が1位だったが、昭和57年には「悪性新生物」が「脳血管疾患」を上回って1位になり、さらに昭和61年には「心疾患」が「脳血管疾患」を上回り、2位になった。(図5)

図5 主要死因別死亡率の年次推移



死因ごとの構成比をみると、悪性新生物が27.8%、心疾患が15.2%、脳血管疾患が8.7%と続き、これら3つの死因で全体の51.7%（前年51.9%）を占めている。(図6)

図6 10大死因の構成比



令和元年の年代別死因順位をみると、10歳代から20歳代までは、自殺が死因第1位であり、30歳代から80歳代までは、悪性新生物が死因第1位となっている。(表4)

表4 年代別死因順位、実数

年代	総数 (実数)	1位	2位	3位
0～9歳	34	周産期に発生した病態 12	先天奇形, 変形及び染 色体異常 5	悪性新生物 3
10～19歳	19	自殺 9	不慮の事故 3	悪性新生物 2
20～29歳	39	自殺 13	不慮の事故 7	悪性新生物 5
30～39歳	82	悪性新生物 25	自殺 19	不慮の事故 11
40～49歳	261	悪性新生物 81	自殺 38	心疾患 28
50～59歳	652	悪性新生物 276	心疾患 76	脳血管疾患 55
60～69歳	1,992	悪性新生物 902	心疾患 262	脳血管疾患 159
70～79歳	3,643	悪性新生物 1,479	心疾患 417	脳血管疾患 286
80～89歳	6,919	悪性新生物 1,783	心疾患 1,132	脳血管疾患 651
90～99歳	4,525	老衰 872	心疾患 838	悪性新生物 562
100歳～	258	老衰 122	心疾患 39	肺炎 22

3 乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡

(1) 乳児死亡

令和元年の乳児死亡数は23人で、前年の15人より8人増加した。乳児死亡率（出生千対）は3.2で、前年の1.9を1.3ポイント上回り、全国の1.9を1.3ポイント上回った。（表1）

死亡の原因の内訳をみると、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形及び染色体異常」が多い。（表5）

図7 乳児死亡数及び乳児死亡率の年次推移

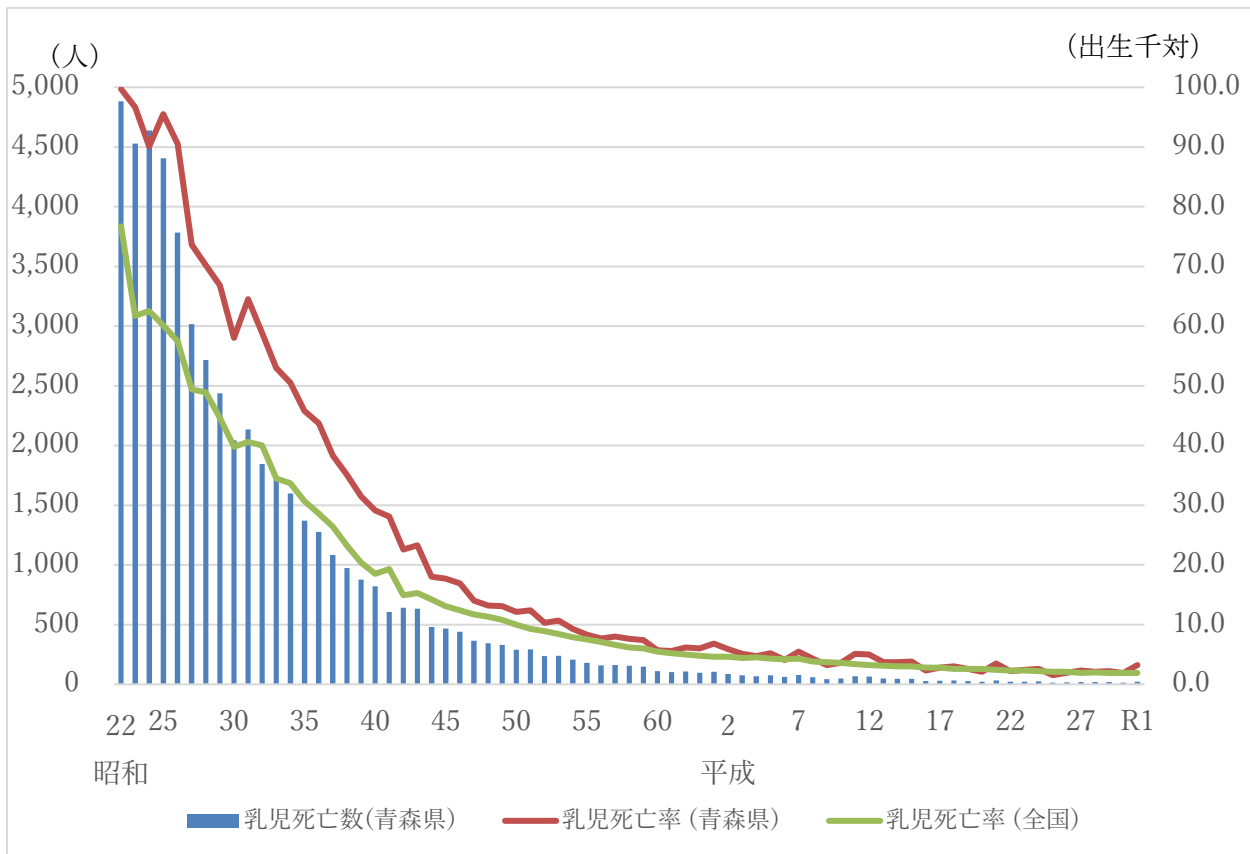


表5 乳児死亡の内訳の年次推移

死亡の内訳	平成25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
総計	14	17	20	18	18	15	23
周産期に発生した病態	4	3	7	6	6	5	12
先天奇形、変形及び染色体異常	5	8	7	5	7	7	3
乳幼児突然死症候群	2	2	1	-	-	-	2
その他	3	4	5	7	5	3	6

(2) 新生児死亡

令和元年の新生児死亡数は15人で、前年の10人より5人増加した。新生児死亡率（出生千対）は2.1で、前年の1.3を0.8ポイント上回り、全国の0.9を1.2ポイント上回った。（表1）

死亡の原因の内訳をみると、「先天奇形、変形及び染色体異常」、「周産期に発生した病態」が多い。（表6）

図8 新生児死亡数及び新生児死亡率の年次推移

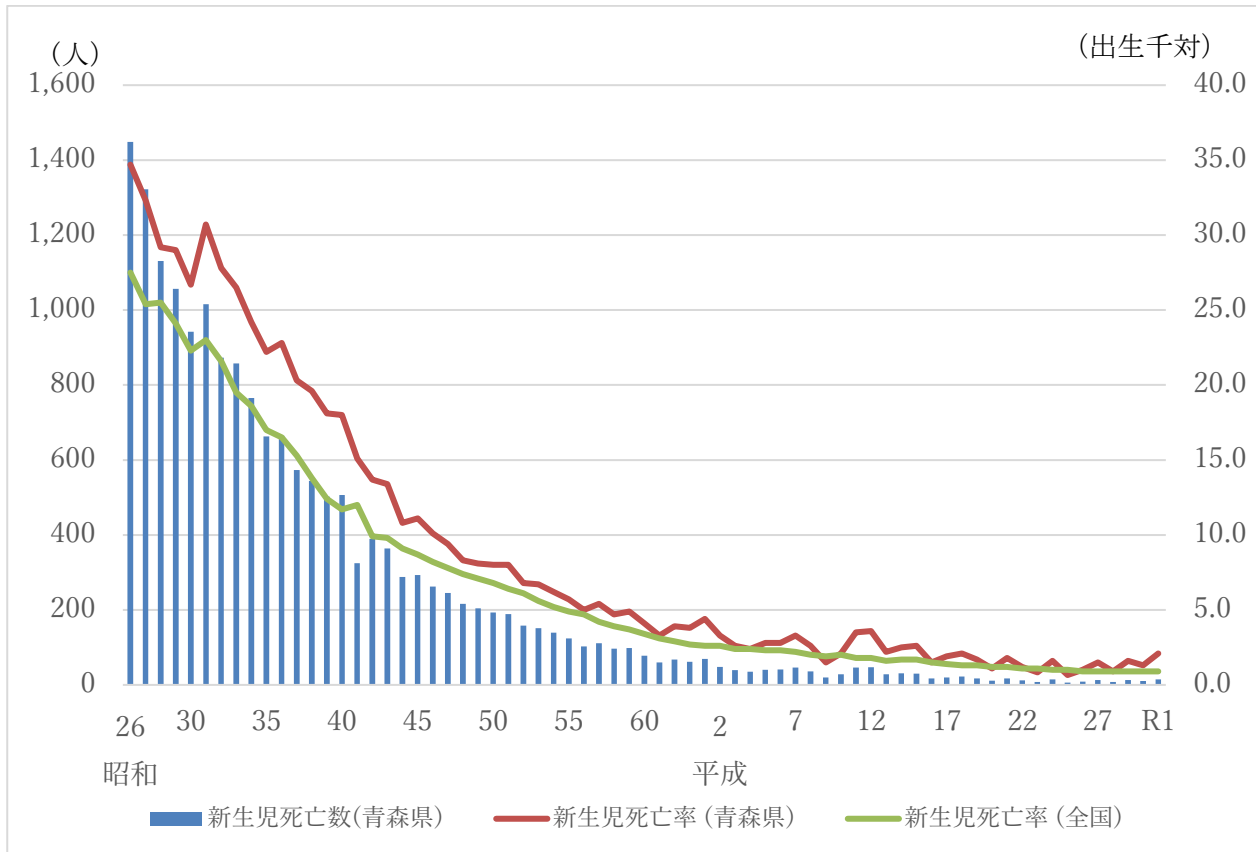


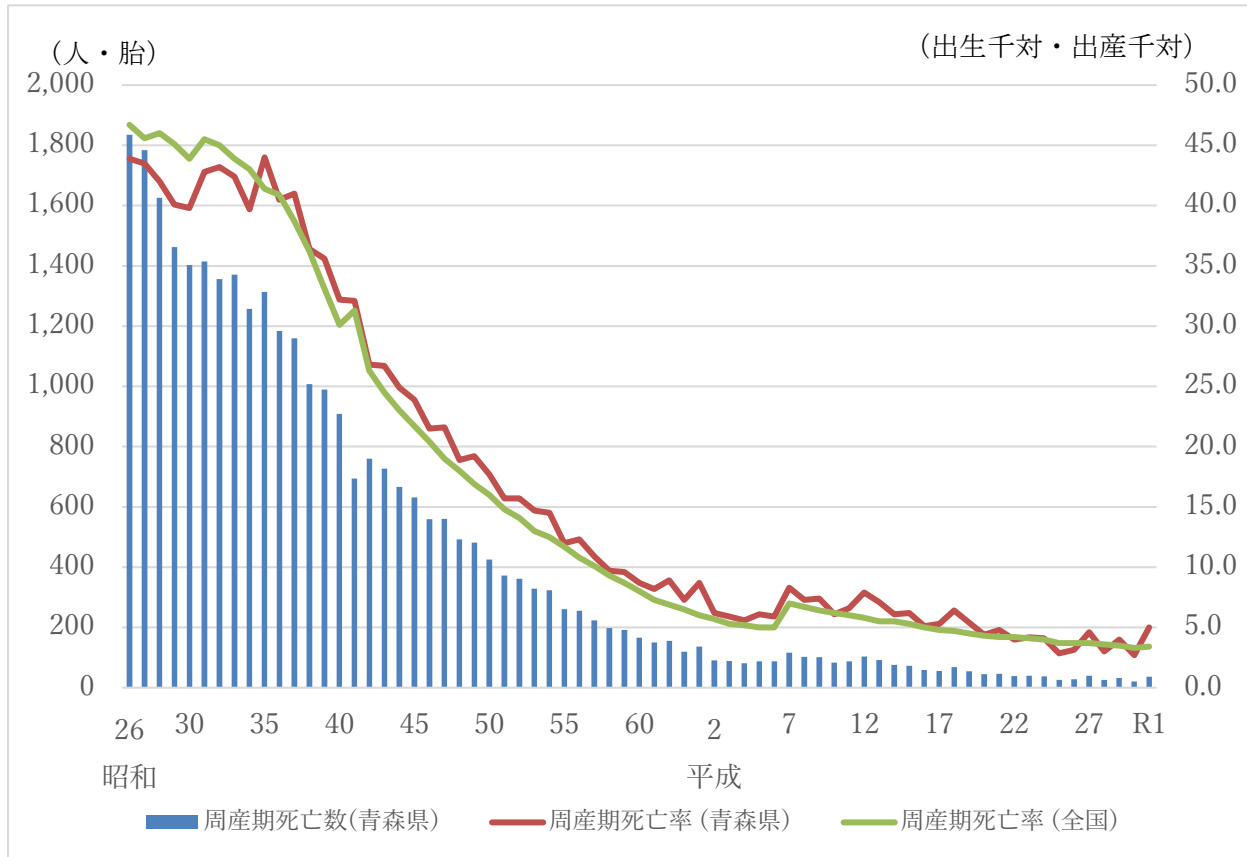
表6 新生児死亡の内訳の年次推移

死因の内訳	平成25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
総計	6	9	13	8	13	10	15
周産期に発生した病態	2	3	7	6	6	4	12
先天奇形、変形及び染色体異常	4	5	5	2	4	5	3
乳幼児突然死症候群	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	1	1	-	3	1	-

(3) 周産期死亡

令和元年の周産期死亡数は36件（妊娠満22週以後の死産25胎、早期新生児死亡11人）で、前年の21件（同13胎、同8人）より15件（同12胎増、同3人増）増加した。周産期死亡率（出産（出生+妊娠満22週以後の死産）千対）は5.0で、前年の2.7を2.3ポイント上回り、全国の3.4を1.6ポイント上回った。（表1）

図9 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移



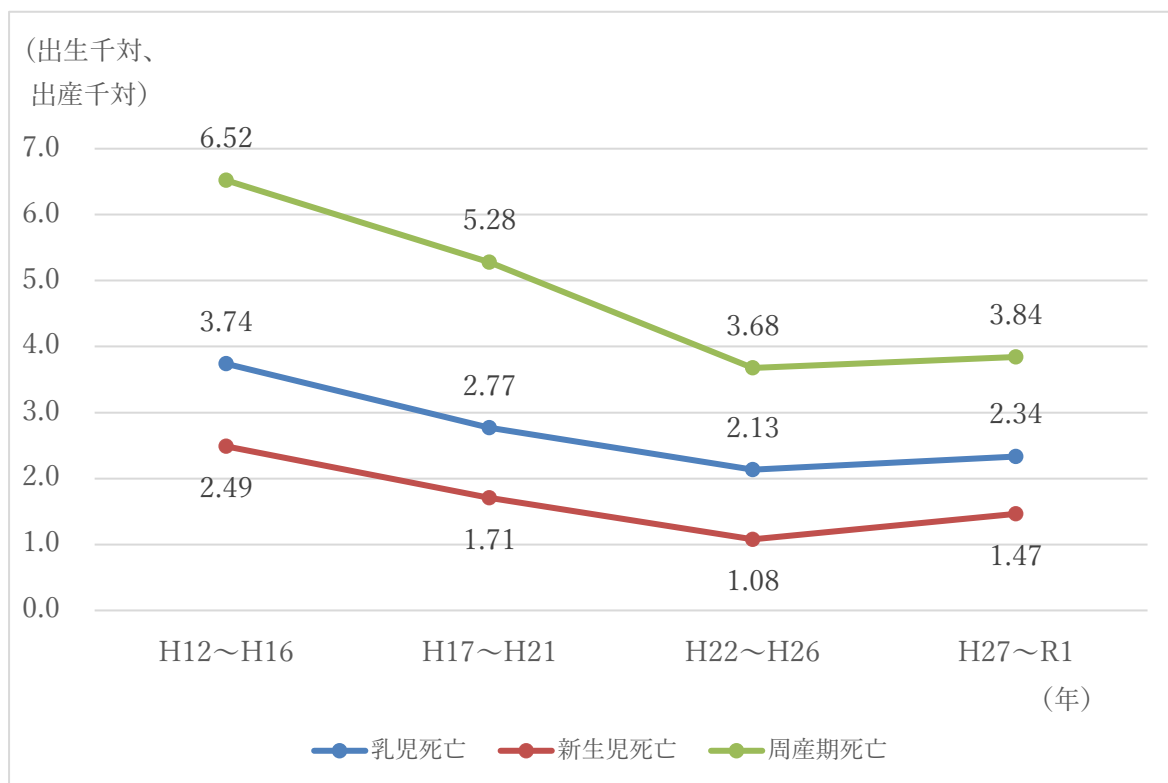
※ 周産期死亡については、死亡数、死亡率の算定方法が平成6年以前と平成7年以降では異なっている。

	死亡数	死亡率
平成6年以前	妊娠満28週以後死産 + 早期新生児	出生千対
平成7年以降	妊娠満22週以後死産 + 早期新生児	出産千対（出生+妊娠満22週以後死産）

(4) 5か年比較

乳児死亡、新生児死亡、周産期死亡とも対象数が少ないため実数1件の増減による死亡率への影響が大きいことから、それぞれの死亡率を5年単位で比較すると、乳児死亡、周産期死亡は低下傾向が続いていたが、平成27年から令和元年までの5年単位で増加傾向に転じた。(図10)

図10 乳児死亡率・新生児死亡率・周産期死亡率の5か年比較 (年次推移)

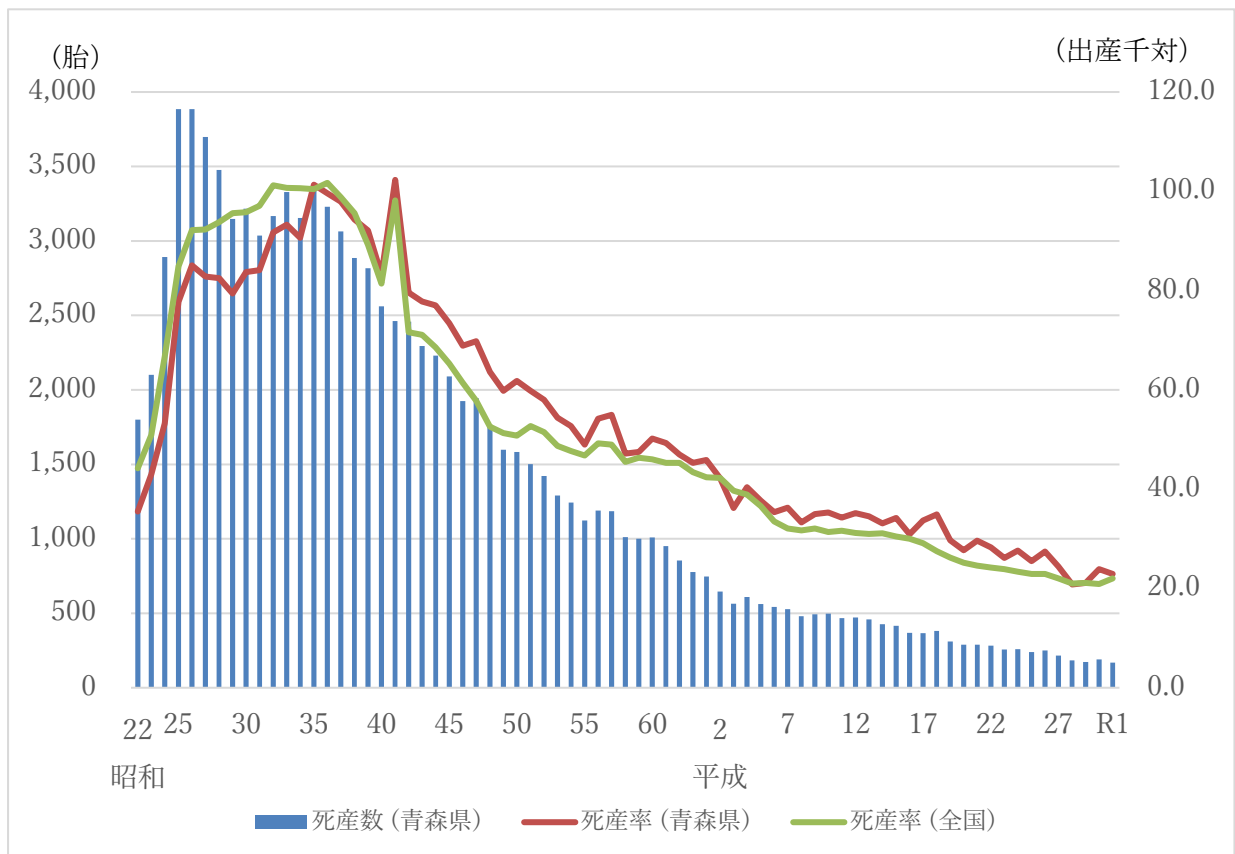


4 死産

令和元年の死産数は168胎（自然死産88胎、人工死産80胎）で、前年の191胎（同91胎、同100胎）より23胎（同3胎減、同20胎減）減少した。死産率（出産（出生＋死産）千対）は22.9で、前年の23.9を1.0ポイント下回り、全国の22.0を0.9ポイント上回った。（表1）

年次推移をみると、死産数は昭和25年をピークに減少傾向にあるが、死産率は昭和35年をピークに減少に転じ、昭和41年（ひのえうま年）には急激時上昇したが、その後は減少傾向が続いている。（図11）

図11 死産数及び死産率の年次推移



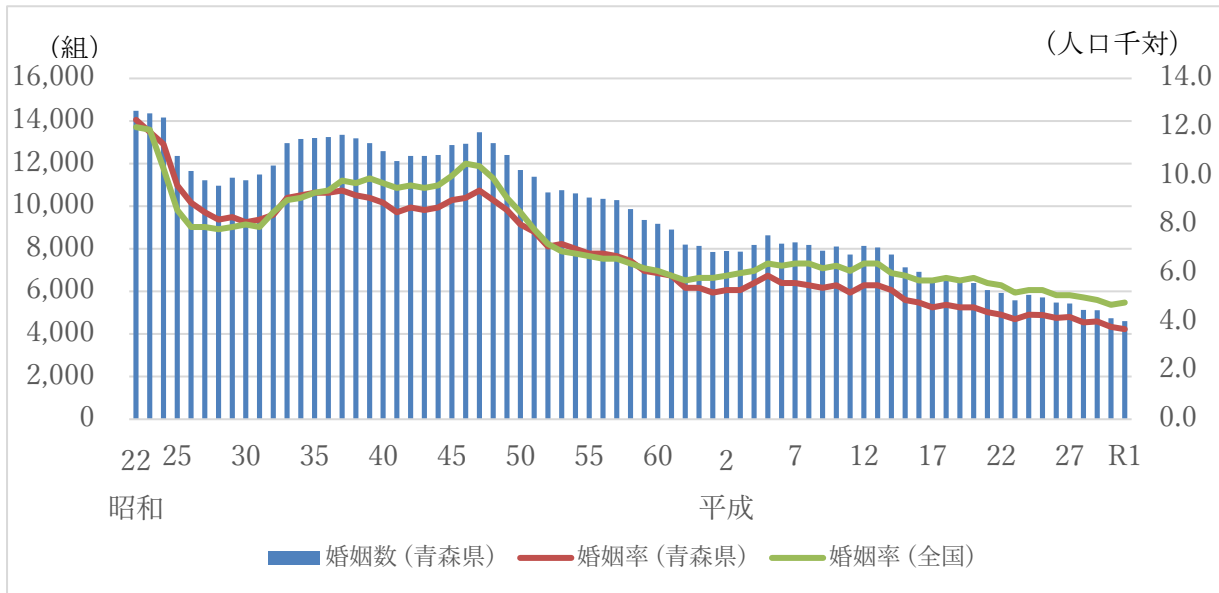
5 婚姻

(1) 概況及び年次推移

令和元年の婚姻件数は4,601組で、前年の4,737組より136組減少した。婚姻率（人口千対）は3.7で、前年の3.8を0.1ポイント下回り、全国の4.8を1.1ポイント下回った。（表1）

年次推移をみると、昭和25年以降横ばいで推移していたが、昭和48年以降減少・低下傾向を示している。（図12）

図12 婚姻数及び婚姻率の年次推移

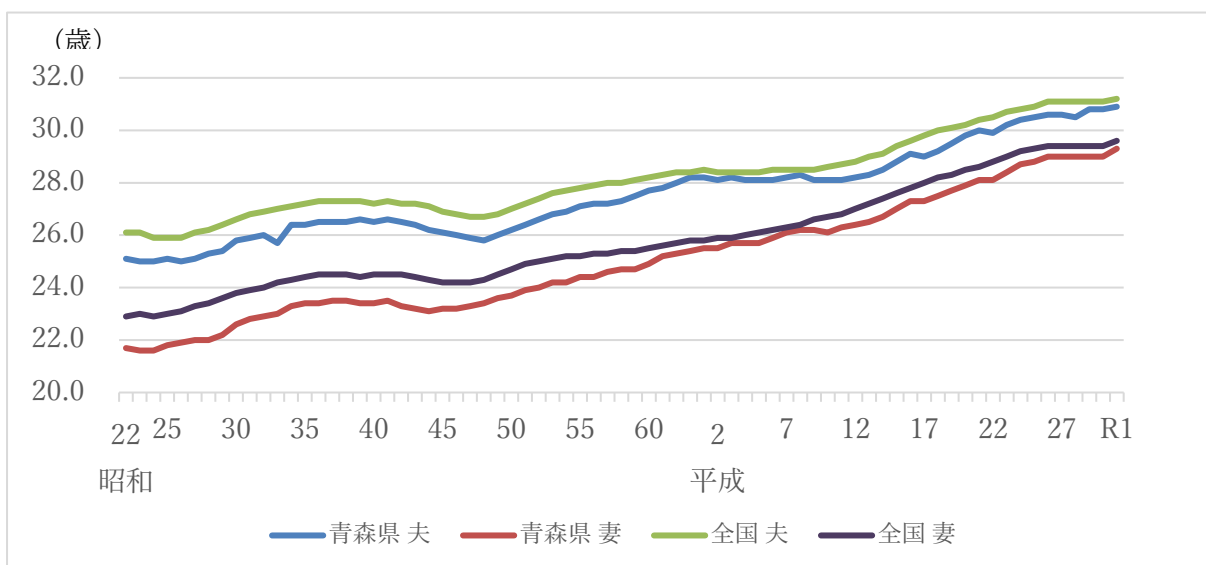


(2) 平均初婚年齢

令和元年の平均初婚年齢は、男性が30.9歳（全国31.2歳）、女性が29.3歳（全国29.6歳）で、男性は前年の30.8歳（全国31.1歳）を0.1歳上回り、女性は前年の29.0歳（全国29.4歳）を0.3歳上回った。（図13）

年次推移をみると、男女とも年々上昇している。

図13 平均初婚年齢の年次推移



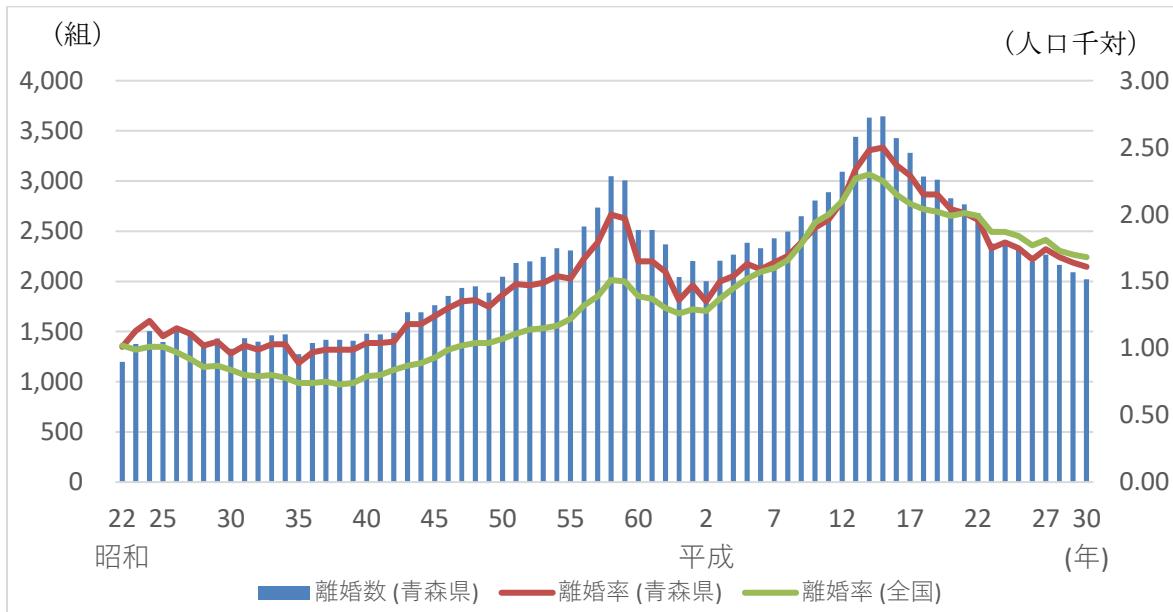
6 離婚

(1) 概況及び年次推移

令和元年の離婚件数は2,009組で、前年の2,022組より13組減少した。離婚率（人口千対）は1.62で、前年の1.61を0.01ポイント下回り、全国の1.69を0.07ポイント下回った。（表1）

年次推移をみると、戦後横ばい状態が続いたが、昭和40年代に入り増加・上昇し、昭和58年をピークに減少・低下傾向に転じた。その後、平成3年から再び増加・上昇したものの、平成16年から減少・低下傾向となっている。（図14）

図14 離婚数及び離婚率の年次推移



(2) 離婚した夫婦の同居期間

令和元年の離婚件数2,009組のうち、結婚5年未満で離婚した件数の構成比は31.3%で最も多く、次いで20年以上の22.1%、5～10年の19.4%の順となっている。（表7）

表7 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	H7年	12年	17年	22年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年
0～5年	36.4	36.7	32.1	29.0	32.8	30.9	31.8	29.8	32.1	33.2	31.5	31.3
1年未満	7.1	6.5	5.3	6.1	5.6	6.5	5.1	5.8	4.9	6.2	5.6	6.1
1～2年	9.3	8.4	7.3	8.2	6.9	7.9	6.4	7.2	6.4	7.1	6.9	6.9
2～3年	8.2	7.7	7.5	6.6	6.6	6.7	6.8	7.7	6.8	7.4	6.8	6.9
3～4年	6.1	7.9	6.7	5.7	5.8	6.1	6.0	5.8	6.0	6.9	6.1	5.4
4～5年	5.8	6.2	5.3	6.2	6.0	4.6	5.6	5.6	5.0	5.6	6.1	5.9
5～10年	19.0	22.4	23.0	22.2	20.6	20.4	22.1	21.3	19.1	19.0	20.0	19.4
10～15年	13.2	11.0	13.9	13.7	14.6	14.6	12.3	14.3	13.5	12.2	13.3	13.7
15～20年	11.0	8.5	9.9	10.2	10.9	11.3	12.0	11.1	10.6	11.1	11.5	11.4
20年以上	18.9	18.1	19.2	20.1	18.0	20.0	19.0	20.2	21.3	21.3	20.4	22.1
不詳	1.5	3.4	2.0	4.7	3.0	2.7	3.0	3.2	3.4	3.2	3.3	2.1

第2 医療統計の概要

1 医療施設

(1) 病院

令和元年10月1日現在の病院数は94施設で、前年の95施設から1施設減少した。人口10万対では7.5で、前年の7.5と同値であり、全国の6.6を0.9ポイント上回った。

年次推移をみると、年々増加していたが、昭和58年の124施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

(2) 一般診療所

令和元年10月1日現在の一般診療所数は877施設で、前年の885施設から8施設減少した。人口10万対では70.4で、前年の70.1を0.3ポイント上回り、全国の81.3を10.9ポイント下回った。

そのうち、有床診療所は137施設で、前年の142施設から5施設減少し、診療所全体の約15.6% (全国6.5%) となっている。

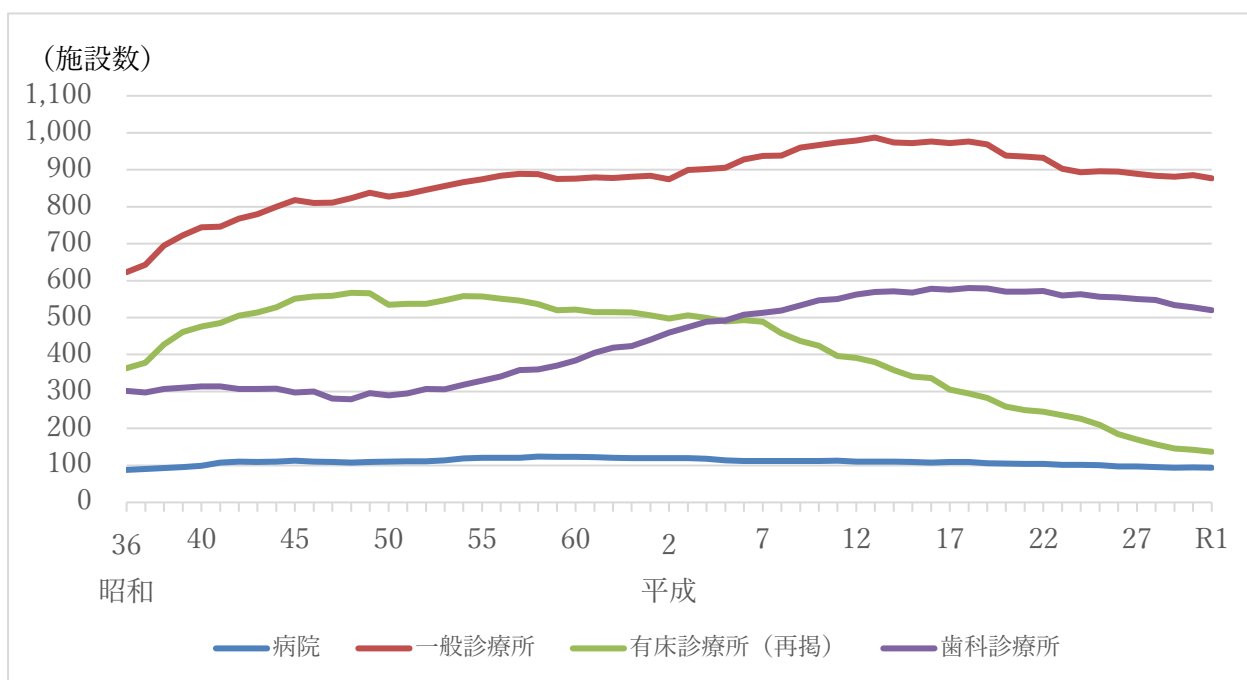
年次推移をみると、年々増加していたが、総数は平成13年の987施設、有床診療所は昭和48年の567施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

(3) 歯科診療所

令和元年10月1日現在の歯科診療所数は520施設で、前年の528施設から8施設減少した。人口10万対では41.7で、前年の41.8を0.1ポイント下回り、全国の54.3を12.6ポイント下回った。

年次推移をみると、年々増加していたが、平成18年の580施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

図1 医療施設数の年次推移



2 医師・歯科医師・薬剤師

(1) 医師

平成30年12月31日現在の医師数は2,712人であり、前回調査の平成28年(2,702人)から、10人増加している。また、人口10万対では214.7であり、前回(209.0)に比べ、5.7ポイント上回り、全国値である258.8を44.1ポイント下回った。(表1)

表1 医師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		平成10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年
青森県	医師数	2,487	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563	2,636	2,639	2,681	2,702	2,712
	人口10万対	168.3	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1	191.9	195.5	203.0	209.0	214.7
全国	医師数	248,611	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049	303,268	311,205	319,480	327,210
	人口10万対	196.6	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4	237.8	244.9	251.7	258.8

(2) 歯科医師

平成30年12月31日現在の歯科医師数は740人であり、前回調査の平成28年(762人)から、22人減少している。また、人口10万対では58.6であり、前回(58.9)に比べ、0.3ポイント下回り、全国値である83.0を24.4ポイント下回った。(表2)

表2 歯科医師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		平成10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年
青森県	歯科医師数	730	717	758	757	777	789	781	787	780	762	740
	人口10万対	49.4	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7	56.9	58.3	59.0	58.9	58.6
全国	歯科医師数	88,061	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426	101,576	102,551	103,972	104,533	104,908
	人口10万対	69.6	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9	79.3	80.4	81.8	82.4	83.0

(3) 薬剤師

平成30年12月31日現在の薬剤師数は2,306人であり、前回調査の平成28年(2,210人)から、96人増加している。また、人口10万対では182.6であり、前回(170.9)に比べ、11.7ポイント上回り、全国値である246.2を63.6ポイント下回った。(表3)

表3 薬剤師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分		平成10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年
青森県	薬剤師数	1,519	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882	2,012	2,052	2,111	2,210	2,306
	人口10万対	102.8	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2	146.5	152.0	159.8	170.9	182.6
全国	薬剤師数	205,953	217,477	229,744	241,369	252,533	267,751	276,517	280,052	288,151	301,323	311,289
	人口10万対	162.8	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7	215.9	219.6	226.7	237.4	246.2